

## 人生の評価(マルコ 5:1~20)

刑務所に入れられている人、また精神病を患っている人を見ると「人生失敗したなあ」とつい思っ  
てしまいます。家庭が壊れてしまい、大変な病を患っている人、また夢半ばで途絶えて挫折している  
人などを見ると、「あの人の人生は失敗なんだ」と簡単に評価をしてしまう傾向があります。しか  
し、本当に失敗と言えるものなのでしょうか。その人が生きている限り、評価はまだ早いのではない  
でしょうか。今日の聖書の箇所を見ますと、悪霊にとりつかれて人の手に負えられないほど暴れてい  
る人がイエス様と出会って、イエス様がその人から悪霊を追い出すことで正気に戻った。それで、そ  
の人はイエス様について行こうとしましたが、イエス様はまずその人の社会的な身分の回復を  
優先して許すことがなかったということが書いてあります。そして、その悪霊にとりつかれていた人  
に向かって「お前の名前は何なのか」と聞かれた時に、「私の名前はレギオンです」。つまり、軍隊  
の悪霊、大ぜいの悪霊がその人に入っていたのでそのように返事をしました。それから私たちをこの  
町から追い出さないでください」とお願いをして「あの豚の群れの中に私たちが移るようにしてくだ  
さい」とお願いしたわけです。それでイエス様がそれを許可すると、その悪霊たちが豚の群れの方  
に移動して豚が崖を走り降り、水に溺れてみな死んでしまいました。それを見ていた豚を飼っていた人た  
ちが、町の人々に今起きたこのようなことを詳細に報告するわけです。すると、町の人々がイエス様  
のところに来て、悪霊にとりつかれて人の手に負えなかった人が正気に戻って座っていることを見て  
驚きました。町の誰もが知っている人だったので、ところでその後の反応がおかしいわけです。それ  
をそのように見ていたら「いや、これはすごいな。お医者さんにも学校の先生にも自分の親にもどう  
にもならない人が、イエス様と出会ってこのように正気に戻った。この人は一体誰なんだろう」。そ  
れでイエス様に礼拝を捧げる、またイエス様に信仰告白することが筋でしょう。なのに豚が全部死ん  
でしまったということで、イエス様に対して「この町から出てください」とお願いすることになりま  
す。それが悪霊に取りつかれていた人と比べるととても普通で正常な町の人々の反応でした。それが  
今日の聖書に書いてある内容です。この聖書の話を通して、一体どのように人生を評価すべきなの  
か。私たちが今まで普段、これは失敗だ、これは成功だと評価していたことが、はたして合っている  
ものなのかと問いかける必要があると思います。人生の評価のためには、まずこの世はすでに暗やみ  
に覆われているということを前提にして評価するとき、その評価は正しいものになるし、また成り  
立つことができるんだということをクリスチャンの私たちは確認していかなければなりません。

### 1. 絶望的な異常が最高の祝福の機会になる

なので、今日の聖書を通してその大前提、この世はすでに暗やみに覆われているということを前提に  
して評価しますと、第一に世的に絶望的な異常の方がむしろ最高の祝福の機会になるということが分  
かるようになります。もう一度言います。この世はすでに暗やみに覆われているということを前提に  
すれば、普段、私たちが普通にあれはおかしいなあ、あれはダメなんだと思うしかない絶望的な異常  
の方が最高の祝福の機会になります。

#### 1) 悪霊に取りつかれて、コントロール不能

今日の聖書を見ていても悪霊にとりつかれている人、人の手に負えない状態です。自分自身の体を自  
分で傷つける状態でした。鎖に繋がれていても、それを断ち切ってお墓を住処にして、そこを転々と  
する、町の人がとても困惑するしかないし困ってる人、しかも一匹、二匹の悪霊ではなくて、レギオ  
ンと呼ばれるほど大ぜいの悪霊が一人の人間に入り込んで、その人をコントロールして支配する、そ  
ういう状態の人間です。誰が見てもこれはもう異常なんだ。どうしようもない。どうすりゃいいんだ  
と言うしかない、そういう人間がイエス様と出会いました。それで正気に戻ったわけです。正気に戻  
ただけではなくて、イエス様についていこうと願うようになりました。もちろん別の意図があっ  
て、イエス様がそれを許さないで家に戻るように勧められましたけれども、そのように人が変わりました。  
その後、この人はイエス様のおあかしをしながら福音をどんどん広めていったと聖書には記され  
ています。これこそが最高の勝利の人生、成功ある人生ではないのでしょうか。一体誰が成功した人  
で、誰が失敗の人生でしょうか。社会的に高い地位に着けば成功なんではないでしょうか。他の人と比べてと  
きにすごいものを持っていて、またすごい長所を持っているから、その人は成功ある人生と言えるも

のなのでしょう。それが普通の考え方なのです。普通の見方です。しかし、クリスチャンの私たちはその見方を変えなければなりません。

## 2) イエス様の周りに集まった人々

イエス様の周りに集まってきていた人々を見てもそうなのです。大体、中風の病気を患っていた人、また不治の病と言われていた長血の病気を患っていた女の人。あるいは人に指さされて売国者と言われていた取税人、つまりお金の奴隷になっていた人。5回離婚して、人の目を避けてこっそりと暮らしていた人。6番目の男は戸籍に入れないで、噂を立てないで静かに暮らすしかなかった人々がイエス様の周りに集まってきていました。だから、パリサイ人や当時の偉い宗教指導者、普通に正常だと思っていた人々は、イエス様の周りに集まっている人々を見て「何これ？おかしくない？イエスはいったいどんな人間なのか」というように疑う目で見えていたわけです。なぜ罪人と一緒に食事をして、失敗ばかりしている人と付き合っているのかというふうにつぶやいて、またそのような目で見えていました。しかし、彼らが普通に失敗と見ていた人々がイエス様の周りに集まってイエス様を通して正気に戻ることになったわけです。だから評価は早いのです。その人がまだ死なないで生きている限りは、目の前にある状態を見て「失敗だ。成功だ」とついついすぐに勝手に判断してはいけません。絶望的な異常こそ、むしろ最高の祝福の機会になるからです。なぜなのでしょう。

## 3) 人間の手に負えられない違う世界

今日の聖書に出てくる悪霊、しかもレギオンの悪霊にとりつかれていた、どうにもならないコントロール不能な人間、その人生がそのような異常を通して今まで普通では見ることができない世界を見ることができるようになるからなのです。空中の権威を持つ悪魔サタンが支配している世界、そこにもろもろの悪霊が働き、人々を困らせている暗やみの世界があるということに気づいて、それを見ることが出来る機会が許されるわけです。誰にでしょうか。この世のレベルから見るときには絶望的で異常と思われる人々にそのような機会が許されるわけです。つまり、悪霊にとりつかれることで、人間の手に負えない違う世界があるということ、それに気づくチャンスが許されるわけです。普通のままではいくらそういうお話してもええ？と反応しません。普通にこれはだめだ、失敗だと思われるそういう状況に追い込まれたときに、違う世界に目覚める機会が許されるわけです。それでやっとこの世にあるすべての理論、すべての法則、また宗教、そして人間などは頼りにならないんだね。別に悪いと言うつもりはありませんけれども、そこには希望などははなから存在しなかったんだねということに気づくようになります。この社会を生きていくために必要なものなどはたくさんあるでしょうけれども、この世にある勉強、理論、学習した内容、法則、宗教、また宗教的な頑張り、人間などは頼りにならないものなんだということに本気で初めて気づくようになり、心から認めるようになるきっかけになります。何がなんのでしょうか。普通に失敗と言わざるを得ない絶望的な異常がそのようなきっかけになるわけです。

## 4) Only キリスト、Only イエス

それで初めてキリストの他に道はないね。Only キリストだけなんだね。誰がなんと言おうが、今まで何を勉強してきたのかわかりませんが、お金がどれほどあるかどうかわかりませんが、そういうものは一切通用しない世界があるんだ。レギオンの悪霊がうごめいている、そういう世界があるんだ。今までは親が悪くて、そのいじめのせいで私は今このように精神的に追い詰められているんだとばかり考えて、それが脳に刻印されて人生を狂わせていたのですが、その最後の最後まで行って違うな。レギオン、悪霊が働いている、うごめいている、そのような世界があるんだということに気づいて、今まで誰かのせい、何かのせい、これがあれば、これがないからと言っていたすべてが崩れて一つしか残りません。神の恵みでなければ、キリスト Only なんだね。Only イエスなんだね。正しいか正しくないか。どっちが先なのか後なのか、そういうことは分かりません。とにかく分かりません。世界中でキリストの御名の他に私たち人間が救われる名としてどのような名も私たちには与えられていません。キリストだけが希望なのです。そして、そのイエス・キリストに向かい、すべてを振り払って、そのイエス・キリストを救い主として信じて受け入れるようになります。

## 5) 新しいいのちと天国の希望、証人

今日の聖書から見ますと、そのイエスの御名によって悪霊が追い出されて、死と罪の原理から解放さ

れることとなります。イエス・キリストを受け入れた瞬間、失敗の人生、どうにもならない人生、コントロールが効かない、人の手に負えないと思われていたその人に新しいのちが与えられて天国の希望を持って残りの人生を歩くように造り変えられるようになります。新しいのちが与えられて、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなる、そういういのちのわざが行われるようになります。新しいのちある者には天国の希望が許されます。なので新しいのちを持って天国の希望に向かって、残りの生涯をイエスの証人として生きることとなります。これこそが成功ある人生、最高の人生なのです。クリスチャンは自分の人生を始め、人の人生を勝手に生半可に評価してはいけません。世の中ではああだこうだといろいろな評価があるかもしれませんが、クリスチャンの私たちはそうするわけにはいきません。なぜでしょうか。絶望的な異常こそがむしろ最高のチャンスになりますので。結論のほうで申し上げますけれども、この中にそういう人はいないでしょうが、こりゃだめだどこか自分自身に対して絶望的などころがある人は喜んでください。発想を変えなければなりません。人生は世の中でああだこうだと言っているような、そんなものではありません。神様が罪人を愛して御子イエス・キリスト十字架に引き渡されました。そんなに簡単に勝手に評価するものではありません。もしそういう評価であれば、ここに立っているこういう人間もここに立ってられません。神様は私たちの常識とかみ合わない方なのです。無条件の愛を持って罪人を救われる方です。レギオンに捕らわれて人の手に負えない、コントロールできないその人生を正気に戻す方なのです。その正気というのは、ただ普通に戻ったという意味ではありません。神のかたちに戻す、そういう方なのです。だから、希望を捨ててはいけません。どんな状況であろうが。どんなに絶望的な環境に置かれていたとしても希望を捨ててはいけません。勝手に判断してはいけません。たぶんレムナントの中でも生まれたときから家庭のさまざまな状況、家系のいろいろな影響などによって、脳細胞に小さい時から否定的なものが刻印されていて、何もかもが暗くなってしまうそういうレムナントがいるかもしれません。考え方を変えてください。だから自分を愛することができません。今日の聖書に書いてあるこの悪霊にとりつかれた人のように、自分の心を自分で傷つけるわけです。お前はだめだ、だめだ。虐待されたでしょ？だからダメなんだよと。無視されたでしょ？比較されたでしょ？親がいないでしょ？だからお前はそんな人間だというように脳に刻印されていて、自分で自分を傷つけるのです。自分で自分を傷つけることは、レギオン、悪霊のしわざなのです。でも失望しないように。それこそが違う世界で、今まで皆さんが思っていたことは全部嘘なのです。違う世界があります。今まで気づいていなかったレギオンが働いている、目に見えない悪霊が私たちの脳細胞に、私たちの心を動かして、ダメにしてしまう、そういう世界があるということに気づかなければなりません。そのための材料なのです。それにさえ気づくことができれば、Only キリストになるし、Only イエスになることこそが最高の人生への道なのです。悪霊はさまざまなことを捉えて、とにかく Only キリストにはならないように。脳細胞に刻印されているさまざまなことをずっとそれに気が囚われて、そこからなかなか逃げられないように邪魔するわけです。

## 2. 普通の正常がむしろ真の祝福を遠ざける

なので、人生の評価は、私たちクリスチャンはこのようにするようになります。今日の聖書を通して二番目です。普通の正常、世の中で正常だと普通だと言っていることが、むしろ真の祝福を遠ざけてしまいます。なぜでしょうか。世の中で普通、あるいは正常と言っていることは、実は冒頭で申し上げましたように、すでに暗やみに覆われているということ的前提にして考えないといけません。そこに何が正常、何が普通というものがあるのでしょうか。

### 1) 3、6、11 が基本

世の中で普通、正常と言っていることは、実は創世記 3 章、6 章、11 章を基本にしていることなのです。自分中心、目に見えることが中心であり、この世が中心であり、自分と目に見えるもの、この世がすべてなのです。そういう基礎をもって考えること、それで生きることを正常、普通と言っているところがこの世なのです。それがこの世の普通、正常というものです。正常をそんなにうらやむ理由などはありません。

### 2) 衣食住がテーマ

だから当然、世の中の普通、正常のテーマは何かというと、何を食べるか、何を着るか、何を飲むか、衣食住がテーマになることが普通なのです。それが正常です。なぜ衣食住がテーマなのでしょう

か。国も個人的にも衣食住がテーマです。なぜでしょうか。すでに神を失い、暗やみに覆われていて、創世記3章、6章、11章が基本になっているので衣食住がテーマになるしかなかったわけです。

### 3) 損得の計算、是々非々、こだわり多

だから、その世の中の普通、正常という中では、いつも衣食住のテーマのための損得の計算に走るようになります。それがいつも優先なのです。それとその衣食住のテーマのための是々非々にとってもデリケートなのです。結果、衣食住のテーマを取り囲んでこだわりが多すぎるのです。クリスチャンがなかなか信仰が成長できないまま、答えがなかなか見れない理由の一つが何かと言いますと、クリスチャンなのにこの衣食住をテーマにした、そこから生まれたそのこだわりがあまりにも多いのです。クリスチャンにはこだわりなどは実はありません。四方八方から苦しめられても窮することはありません。お腹が満腹でもお腹がすいていても私には関係ありません。だからこだわりがないのです。どんどんこだわりが削られて鈍くなっていくことが信仰の成長なのです。それをOnlyと言います。なのに知識のある人、経験豊富な人こそ、クリスチャンなのにこだわりが多いのです。脳細胞にそのように刻印されていたので。たぶんガンにかかる少しそれが砕かれるかもしれませんがけれども。そうなる前にみことばを通して、神様の恵みによって違う世界に目覚めることで、そのこだわりがどれほど無益なものなのかだけではなくて、それが害なのかということにぜひ気づいていただきたいと思えます。だから普通だからこそ損得の計算、また是々非々などのこだわりにデリケートなのです。

### 4) 福音を拒む(17)

その結果、それに基づいて福音と信仰、イエス・キリストがどっちなのかということ計算して拒むようになります。今日の聖書を見ますと、レギオンの悪霊にとりつかれていた人と比べると、極正常な人々が来て、豚が全部死んだということで、この悪霊にとりつかれていた人がいやされたということより、豚が死んだということで計算してみると、イエス様がここにいらっしゃるとこれから豚どころか羊も猫も全部死んじゃうのではないかという、たぶんそういう計算だったと思います。だから「イエス様、もう私たちには無理なので、ちょっとここから出てください」。なぜでしょうか。普通だから。正常な人間だから計算が早いのです。だから教会に通うと、たぶんこれがこうなるだろうと計算します。イエス様を信じると、今まで自分が偉そうに自慢していたものが自慢できなくなるのではないか。パウロがそのように言っていたので。今までの宝をちりあくとやっているから、私が宝だと思って他の人にも称賛されていたものがちりあくとこれから言わなきゃいけないのかと思って、もう勘弁してください。そういうレベルなのです。教会に通っていても。もちろん今日の聖書に出ている正常な人のように最初から拒む場合もあります。イエスはいらぬよ。教会でそのような人を取り込むために内容を捻じ曲げます。ごりやくを提供するわけです。「イエスを信じるとごりやくがあるよ」と。「あ、そうか」そうすると普通の人が集まります。世界中の教会がそのようになりつつあります。そこで本当の意味で違う世界、悪霊の世界を打ち破って神の国をもたらすキリストのお話をしますと、「あ、それはやめてください。それは勘弁してほしい。それをずっとお話しするつもりであれば、私はさようなら」というのが今の現実なのです。どこが普通で、誰が正常で、誰が成功で、誰が失敗なのでしょう。そのような人生の評価に対して吟味するときになればいいかなとそう思います。これは国のレベルにおいても個人のレベルにおいても一緒なのです。世の中の正常、それは暗やみに覆われている創世記3章、6章、11章を基礎にしているということを大前提にして考えないといけません。だから、世の中の普通、正常はイエスを拒むようになります。

### 5) 人生の破産

そして、その正常からもう少し頑張っって、正常の上に立っている世の中の成功者、偉い人々は更に強くイエスを拒み拒否します。それで最終的には成功、正常、すごいと思われていたその人々の人生は破産してしまいます。何が正常で何が成功なのでしょう。何が正常でしょうか。今日の聖書を通して、皆さん、それに気づいていませんか。悪霊にとりつかれていることは正常とは言えません。でも、それが世の中の本来の本当の姿を目立つように表わしているだけのことではないのでしょうか。世の中で悪霊にとりつかれていなくて、普通に暮らして自分が正常だと思っている人、それが正常だったのでしょうか。悪霊にとりつかれている人は、イエス様と出会ってそこに跪いてイエスのおあかしをする人生に変えられました。でも、それに比べて普通、正常だった人は、「イエス様、出て行ってください」とイエスを拒むことになりました。これが今日の聖書のお話なのです。難しい話ではありません

せん。ただ、難しいのは、今まで私たちに刻印されている内容が正反対の内容だったので難しく聞こえるだけで、みことばを通してなるほどになって脳細胞の刻印を変えていかないといけないのです。

人生の評価はどのようにすべきなのでしょう。その人生の評価の基準は、キリストであるイエス様にあるということを中心にしっかり刻み込みましょう。その人が今、普通に人間の手に負えないから失敗、世の中の基準から見たときに普通と思われる人だから正常、というふうには評価しません。クリスチャンの人生の評価の基準は、イエス様ご自身なのです。なので絶望的であり、諦めてるところ、そこは違う世界を素直に認めて、Only イエスを告白するための材料なんだということを知って、実際にそのようにしないとダメです。先ほども申し上げましたように、もし皆さんの中に、特にレムナントの中でもまだいろいろ考えることが短いの、そこで自分勝手にいろいろなことを考えて自分なりに評価するかもしれません。絶望的で諦めている暗い部分があれば、それは違う世界、悪霊の世界を素直に認める材料にして、Only イエスを告白する最高の祝福の機会にしましょう。そうすると、今日の聖書の主人公のように皆さんも最高に勝利ある成功ある人生に作り変えられます。そして、クリスチャンの場合に、Only イエスの信仰を邪魔する何かのこだわりがあるとすれば、それが普通、正常と思われるもの、自分が正常だという意識、それで正常だからこそ、何かすごく考えるんですね。何かの考えが多いのです。なぜなら自分が正常だと思っているから。計算が多いのです。こだわりも多いのです。正常だと思っているから。正常な人間は本当はいません。だから Only イエスを邪魔するこだわりというものがあるならば、今日限り自分の思いの中で切り捨ててください。それがいっぺんにできないかもしれません。だから 3.9.3 の祈りをしながら切り捨てる。その都度、その都度ずっとキリストの御名によって切り捨てる。それでイエス様によって自分は最高の人生なんだということを宣言しましょう。イエス様が人生の評価の基準なので。イエス様を受け入れたのであれば皆さんが Only イエスを邪魔するいろいろなこだわりを持っているから問題であって、それを切り捨ててキリスト Only にして、そのイエス様によって私は何がどうであろうが最高の祝福の人生なんだと宣言しましょう。その宣言ができるときに次に移ることができます。そのときに使徒 1:7 が聞こえてきます。今までこだわっていたものに対してそれはあなたがたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると。つまり、御座の祝福があなたに臨まれると、あなたは聖霊の力が臨まれる幸いな祝福の存在なんだよ。そこから自分を見失ってはダメです。何がどうであろうが、周りからなんと云われようが、全部カットしてそれだけを握って使徒 1:14 の祈りに専念していた、その祈りを捧げる信者になりましょう。

最後にこのようにまとめます。イエス様のいないすべての人は伝道の対象者です。そして、イエス様がともにいらっしゃるすべての人は、状況がどうであれすべて伝道者なんだ。これが人生の評価です。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日の聖書の箇所を通して、人生をイエス様を基準にして評価することができるようにひとりひとりを内側から祝福して導いてください。それで今まで評価していた内容を全部捨てて、イエス様を基準にして自分は最高の成功ある祝福の人生だと宣言し、こだわりから自由になって聖霊充滿の御座の祝福に満たされる祈りに専念することができるように。それで証人として最高の勝利の人生を歩めるようにひとりひとりを導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン